

交通事故被害者となって感じたこと

48歳 男性

私は、今年の8月、市内の県道上で発生した車同士が出合い頭にぶつかる交通事故で、片方の車に同乗していて頭を強く打つ怪我をした男性の息子です。

父はその日、友人3人と連れ立って、その友人が運転する車に乗って近くの催し会場へ行く途中、この交通事故に遭ってしまったのです。

事故の連絡を受けた私は、すぐに搬送先の病院へ駆けつけたのですが、3人とも同じ病院に運ばれ、父だけが意識不明の状態であり、ドクターヘリで大きな病院に運ばれ治療を受けることになったのでした。

父は幸いにも命だけは取り留めましたが、未だに意識は戻らず病院に入院したままなのです。

事故で怪我した3人のうち、父だけがこのような状態になったことで、「何で親父だけこんな目に遭わなければならないのか。」と、悔しくやるせない思いで一杯でした。

私は、よくテレビや新聞などで、「交通事故が発生しました。」「怪我人が出ています。」あるいは、「乗っていた人が亡くなりました。」などのニュースを耳目にしてきました。

しかし、私自身そのようなニュースもまるで他人事であり、「あっそうか。交通事故には気を付けよう。」と思うくらいで、被害者となる人のことは考えもしなかったのです。

その私達家族があの日、あの時を境に突然、被害者の立場になってしまったのです。

私達家族は、これまで父母や私の家族が一つ屋根の下で仲良く、楽しく暮らしていました。

しかし、父が事故に遭ってからは父のことが気になり、家の中はそれまでと違い、明るさが無くなり、ちょっとしたことで怒ったり、喧嘩が絶えなくなりました。

何をやっても上手く行かない事が多くなったように感じます。

父の病院へ行っても父とは何の会話もなく、ただ顔を見て、独り言を言うように話しかけることしかできないことや、身の回りの世話などしてやらなければならないことも多いなど、私達家族にとってとても辛い日々が続いています。

この事故の加害者は、事故当時本人も怪我して入院していました。

退院後は、何度か見舞いに来てくれていましたが、それも最初だけで、今は何の連絡もなくなりました。「我が身の怪我が治ったし、この事故のことも全て終わったとって

るのか。」「全く被害者の心の痛みが分かっていない。」と憤りを感じています。

被害者の立場として、加害者にストレートに心の内をぶつけられれば少しは気持ちも治まるのですが、父の友人でもあり言えないのが事実です。

「これが被害者の苦しみなのか。」と痛感しています。

今の私達家族の願いは、早く父に元気だった頃のように回復して欲しいことです。そして、加害者や地域社会の方にも、私達家族の心の痛みを知って欲しいことです。

加害者の罪の償いは当然なのです。そして、本当に悪かったと思っているなら、それなりの思いやりがあるし、地域社会の方も被害者に対する思いやりを持つことで同じような被害者をつくったり、被害者にならないように努めると思うのです。

皆さんがそのような同じ思いを持っていれば、今回のような事故も無くなると思います。

